

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

◎特集 国際青年育成交流(招へい)  
SSEAYPインターナショナル

マクロコズム '97.9



vol. 18

(財)青少年国際交流推進センター

# 「国際青年交流会議」

～1997年7月10日・11日／東京全日空ホテル～

*International Youth Conference*



参加青年代表の挨拶を受ける  
皇太子同妃両殿下



国際青年交流会議に先立ち、  
参加国ナショナル・リーダー  
が武藤総務庁長官を表敬訪問



「国際青年交流会議」は、皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度より始められた「国際青年育成交流」事業の外国青年招へいプログラムの一環として開催されるもので、同事業に参加する日本派遣青年と外国招へい青年を含めた約300人が一堂に会しました。初日の7月10日は、基調講演に一橋大学長の阿部謹也氏を迎え「異文化社会での暮らしかた」と題して講演をいただきました。講演終了後に、皇太子同妃両殿下の御臨席の下に歓迎レセプションが催され、会場は和やかな雰囲気につつまれました。翌日の午前中は、グループ討論の場において意見交換がなされました。

外国招へい青年は、「国際青年交流会議」を皮切りに、武藤総務庁長官への表敬訪問、都内での課題別視察、6府県（栃木県、滋賀県、京都府、和歌山県、島根県、山口県）に分かれてのホームステイを



◀ 阿部謹也氏

▼ 初招へい国ウズベキスタンの  
▼ 青年からの質問



▼ 日本青年の説明を熱心に聞き入る外国青年



◀ 日本を少しでも理解してもらおう  
と頑張るインドネシア派遣団

含めた地方プログラム、そして岩手県で開催された「国際青年の村」を体験し、7月8日の到着から25日間にわたるプログラムを終了して8月1日に帰国しました。

〔「国際青年育成交流」事業平成9年度対象国〕

日本青年派遣国：ブラジル、カナダ、ドミニカ共和国、ドイツ、インドネシア、ジョルダン、ネパール、ジンバブエ（8か国のうち1国）

外国青年招へい国：ブラジル、カナダ、チリ、チェッコ、ドミニカ共和国、フランス、ドイツ、インドネシア、ジョルダン、ネパール、パラグアイ、メキシコ、チュニジア、ウズベキスタン、ジンバブエ（15か国）

## 課題別視察

文化、教育、国際協力、経済、マスメディア、社会福祉の6分野に分けて実施し、訪問先の多くの方々の協力により外国青年に好評を得ることができました。

### 文化（裏千家、深川江戸資料館）



▲ 裏千家東京道場訪問  
「お先に」「どうぞ」日本の心を体感

### 国際協力（財国際協力推進協会、ぐらする一つ渋谷店）



▲ 財国際協力推進協会にて日本の国際協力全般について説明を受けました

### 社会福祉（社会福祉法人 同愛会）



▶ てらん広場（知的障害者施設）と上菅田ケアプラザ（高齢者施設）の方々と交流させていただきました。受入の対応が丁寧で、来訪を楽しみにして下さった気持ちが伝わってきました

# SSEAYP International 10周年を迎えて

日本青年国際交流機構副会長  
森田 正英

(SSEAYP International 元事務局長)

「東南アジア青年の船」に参加した各国の同窓会組織連携機構であるシアップ・インターナショナルは、去る6月ブルネイで10周年を迎えた。はるけき道を歩んできたものだ。

1986年、バリ島での第1回 SSEAYP 情報局会議にはじまり、87年、東京での憲章の草稿と調印そして設立、翌88年のクアラ・ルンプールで第1回総会 (SIGA) 開催。第2回フィリピン総会では事務局長に選任され2期4年を務めた後も毎年 SIGA に出席してきた。「東南アジア青年の船」の貴重な体験が生んだアセアンと IYEO の仲間の情熱が、総務庁青少年対策本部と各国の関係各庁の協力のよろしきを得て、年1回の大イベントである SIGA と活発な事後活動を支えてきた。

SSEAYP 情報局会議時代は、各国の同窓会の現状把握もままならず、連絡を取るのも容易でなく、各国の熱心な参加者に悪戦苦闘しながら連絡し、約束を取りつけ、今後の方策を探ったりした。今

では、各国の同窓会名簿はコンピュータで管理されるようになり、毎年アップ・デートされ、郵送物の管理も安定してきた。

「あちこち旅行したときは既参加青年に会えるといいね」と星降るバリのヌサドア・ビーチで語りあった夢は、トラベル・ネットワークとなり、時とともに形を変え、今や IYEO の各支部がこのネットワークを利用して地元青年と交流を深めるだけでなく、各国の青年同士の招へいにも活用されている。パソコンが高嶺の花であった当時、クアラ・ルンプールで提案されたパソコン・ネットワークは、8年を経て SIGA が一巡したマレーシアでは情報交換の促進策としてインターネットが紹介された。クアラ・ルンプールでは、世界一高いペトロナス・タワーが建設中であったし、「ビジョン2020年」の看板が林立し、スーパー・コリダーが展望されている。

## 主な内容

SSEAYP International 10周年…… 5～10	アメリカの世紀の終わりの始まり…… 14～17
日本青年国際交流機構副会長 森田正英 (SSEAYP International 10年の歴史)	「第7回世界青年の船」団長 松尾式之
トピック (リユニオンのお知らせ) …… 11	地方プログラム受入 (予定一覧) …… 18
各県 IYEO の活動 …… 12～13	福島全国大会のお知らせ …… 19
	九州ブロック大会の開催について …… 20

## 〈表紙の説明〉

「第8回世界青年の船」  
～上岡弘二団長 写真展～  
“青春群像 '96”の作品より  
※「にっぽん丸」スポーツ  
デッキにて

### 新たなる発展の道を

今では既参加青年の名刺に携帯電話と e-mail アドレスが並び添えられていることが当たり前のようになった。この通信の発達とその背景にある東南アジアの急速な経済発展、それに伴うアセアンの人達の自信の高まりがここ 10 年の大きな環境の変化である。

ヴェトナムの参加とラオス・ミャンマーの加盟による ASEAN 9 時代を迎えて、新たな展開を

シアップ・インターナショナルは迎える。時代の波に乗りながら、歩を進めてきた東ア船によるアセアンとのネットワークに新たな息吹が加わろうとしている。お互いを知り、連絡を取りあえる関係は築けた。今後 10 年間、もっと深くこの地域と歴史を知り、グローバルな問題を語り合い、必要とあれば国際協力にも即座に踏み出せるネットワークへの変貌と、そのための若い既参加青年のさらなるコミットメントと新たな存在意義の発見を期待したい。

本年は、SSEAYP International が設立 10 周年にあたります。日本青年国際交流機構とアセアン各国同窓会が築いてきた歴史を振り返り、先人たちが目指した精神を改めて知ることによって新たな価値ある次の 10 年を築く指針としたいと思えます。

### 1. SSEAYP International とは？

「東南アジア青年の船」事業に参加した ASEAN 6 か国の既参加青年も、日本における総務庁青少年国際交流事業既参加青年の組織である日本青年国際交流機構（IYEO）と同様に活動団体を組織し、各国において各種の国際交流活動及び青少年健全育成活動等に寄与しています。

SSEAYP International は、これらの ASEAN 6 か国の同窓会組織（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ）と日本青年国際交流機構によって 1987 年に結成された国際的連携組織です。ここでは、「東南アジア青年の船」事業に参加することで得られた友情の永続、発展を図るとともに、それぞれの同窓会が対等な立場で活動できる基盤の上に、同じ目的を持って、具体的活動を展開することを目指しています。（現在は、ヴェトナムは事業参加後間もないため、SSEAYP International へはオブザーバー参加となっています。）

### 2. 主な活動内容

- ① 各国輪番による年 1 回の総会の開催
- ② 年 2 回の各国同窓会会長会議の開催
- ③ 各種ネットワーク化の推進（コンピュータネットワーク、トラベルネットワーク）
- ④ 名簿のデータベース化
- ⑤ SSEAYP NEWS（既参加青年向けの英字誌）の編集
- ⑥ 「東南アジア青年の船」の船上における同窓会についての説明会の開催
- ⑦ 社会貢献活動の推進
- ⑧ 情報交換

## SSEAYP International の歴史

年度	内 容
1978年	「東南アジア青年の船」第1回既参加青年連携強化会議（OBSC） 各国代表者が「東南アジア青年の船」船上で一堂に会し、各国同窓会組織の連携を保つための会議を開催。以後、代表者招へい人数に変化はあったが、現在まで継続
1983年	シンガポールにおいて「東南アジア青年の船」10周年のつどいをシンガポール同窓会主催で開催。その際に、「SSEAYP 情報事務局」設置決定。各国輪番で事務局を務め、3か月ごとの情報交換と年1回情報事務局担当国での情報局会議開催を行うこととする。
1984年	第1回 SSEAYP 情報局会議開催（タイ）
1985年	第2回 SSEAYP 情報局会議開催（シンガポール）
1986年	第3回 SSEAYP 情報局会議開催（インドネシア） 日本は、出席国の減少により会議継続の意義が薄れることに危機感を抱き、ステイタスを高めて連携意識を強化するため「憲章」の制定を提案
1987年	第4回 SSEAYP 情報局会議開催（日本） 「アジアユースフォーラム '87」として開催 ○ 憲章制定のための各国代表者会議と各国参加青年によるディスカッション 「ALUMNI活動と東南アジア青年の事業について」 ○ <u>SSEAYP International 設立決定</u>
(9月)	<u>SSEAYP International 発足</u>
1988年	第1回 SSEAYP International General Assembly (SIGA) 開催（マレーシア）
1989年	第2回 SIGA 開催（フィリピン）
1990年	第3回 SIGA 開催（ブルネイ）
1991年	第4回 SIGA 開催（インドネシア）
1992年	第5回 SIGA 開催（シンガポール）
1993年	第6回 SIGA 開催（タイ）
1994年	第7回 SIGA 開催（日本）
1995年	第8回 SIGA 開催（マレーシア）
1996年	第9回 SIGA 開催（フィリピン）
1997年	第10回 SIGA 開催（ブルネイ）

## SSEAYP International 総会 (SIGA) の主要議題

1	1988年 マレーシア	名簿の作成、組織のロゴの作成 トラベルネットワーク、コンピュータネットワークの提案 「東南アジア青年の船」プログラムへの提言	6	1993年 タイ	国際社会への新たな貢献の方法 憲章の改正 新事務局長の選出 (ノパドン・パッタマ氏)
2	1989年 フィリピン	憲章の修正、組織のロゴの決定、名簿の作成 トラベルネットワーク、コンピュータネットワークの構築について 新事務局長の選出 (森田正英氏)	7	1994年 日本	トラベルネットワークの確立 共通活動への取り組み 財政基盤の強化
3	1990年 ブルネイ	トラベルネットワーク、コンピュータネットワークの構築について 「東南アジア青年の船」プログラムへの提言 新たな活動プログラム等への展開	8	1995年 マレーシア	インターネットの活用について 社会貢献活動の推進 新事務局長の選出 (早川理恵子氏)
4	1991年 インドネシア	トラベルネットワーク、コンピュータネットワークの構築について 「東南アジア青年の船」プログラムへの提言 事務局長の選出 (森田正英氏再選)	9	1996年 フィリピン	インターネットを活用したネットワーク 整備の在り方、社会貢献活動の推進 SSEAYP International 賞表彰の実施
5	1992年 シンガポール	トラベルネットワーク、コンピュータネットワークの構築について 「東南アジア青年の船」プログラムへの提言	10	1997年 ブルネイ	社会貢献活動の推進 (環境セミナーの実施) SSEAYP International 賞表彰の実施 事務局長の選出 (早川理恵子氏再選)

## 各国同窓会の名称及び代表者

国名	名称	代表者
ブルネイ	Persatuna Bersatu	Mr. Hj Jailani Hj Ibrahim
インドネシア	SSEAYP International Indonesia	Mr. Rino Wicaksono
日本	International Youth Exchange Organization of Japan	大森 充
マレーシア	Malaysia SSEAYP Alumni (KABESA)	Mr. Mohd Auzi Hj Daud
シンガポール	SSEAYP International Singapore	Major Tan soon Hoe, PBM
タイ	ASSEAY Thailand	Mr. Goanpot Asvinvichit
フィリピン	SSEAYP Alumni Association Philippines	Ms. Marilyn Len Goyeneche



## 新たなる10年に向けて

(日本青年国際交流機構副会長  
SSEAYP International 事務局長)

早川理恵子

1987年に設立されたSSEAYP Internationalも10歳を迎えた。設立までの道のりの苦労話は諸先輩方から伺っているが、同時に新たな組織を作る情熱や興奮も伝わってきた。その情熱や勢いは組織が出来てから最初の数年はもつものかもしれないが、そのうち、具体的に動きがとれないもどかしさにメンバーから不満が出てくるものである。メンバー全員が本業を持ちボランティアで活動し、かつアセアン6か国と日本の7か国をカバーする国際組織がそうそう自由に動きが取れるわけもないだろうが、夢を抱いていたメンバーにとっては期待が大きかっただけに不満が残る。一時期こうした壁に苦しんだこともあった。もう一つ、20代の若い時代は、まだまだ自分中心でこういった組織も自分や仲間のために存在し、事業内容も自然と仲良しグループのクローズドなものになってしまう傾向がある。



▲ 環境セミナーにて(早川事務局長(左)奥平さん(右))

10年という年月は当然ながらメンバーを変えた。各国の青年代表として参加した彼らは30代、40代になり政治家、官僚、学者、ビジネス界のリーダーとして活躍している。社会との繋がりも視点を変えて見るようになってきた。SSEAYP Internationalも自分たちのためだけでなく、社会のためであることで初めて存在意義があることを改めて認識できるようになった。そして、ボーダレスの人的ネットワークがいかに貴重な存在であるか、社会貢献のための国際組織がいかに貴重であるか、理屈ではなく実感をもって確信できてきたのだと思う。

「自分が世の中を変えるんだ」という若い情熱は、「自分が世の中を変えている」という静かな、しかし確かな信仰に変わって、SSEAYP Internationalは次の10年へ向けて歩みだした。

## 「灯」から「炎」へ ～第10回 SIGA への参加～

「第23回東南アジア青年の船」参加青年  
奥平 章子

二度目のブルネイは、空からの入国だった。「ロイヤルブルネイ航空」から眺める首都バンドル・スリ・ブガワンは、私が目にするブルネイの新たな表情であった。

初めてこの国を訪れたのは昨年10月。「第23回東南アジア青年の船」参加青年の一人として海路を巡ってムアラに入港した時だった。ルートは異なるにせよ、今回も共通していたのは、心の中

## SSEAYP International 10周年

の「灯」だった。ブルネイの熱風に煽られて、その「灯」がじわじわと温度を増していくのを感じた。

まず驚いたのは、王女様を迎えての開会式に始まり、連日現地のテレビ等でSIGAのことがニュースに取り上げられるなど、ブルネイ同窓会が真剣にこのイベントに取り組んでいる姿だった。SIGAが単なる同窓会であるだけでなく、社会貢献を目的とした、ASEANと日本を繋ぐかけがえのないネットワーク組織の年次総会として認められていることを実感した。その目的の為に、様々

なプロジェクトが立案・実行されていること、そして年間を通じて地道に且つ意欲的に活動をしている人々がいることを、幾つかの会議に出席して具体的に知ることが出来た。また、プログラムの一環としてブルネイ環境庁の専門家などを招き、「環境」と「観光」を考えた「エコ・ツーリズム」に関するワークショップに参加する機会に恵まれたことは、私に新たな視点を与えてくれた。

日本への帰路、ブルネイを上空から眺めながら、今回、SIGAへの初参加によって、心の中の「灯」が「炎」へ変わりつつあることに気がついた。



Her Royal Highness Princess Rashidah on her way to address the 10th General Assembly of the Ship for Southeast Asian Youth Programme at the International Convention Centre yesterday.

### Ship holds spirit of youth: Princess

By Azlan Othman

THE Ship for the South East Asian Youth Programme (SSEAYP) moves the spirit of the young in the region towards a united future for South East Asia as well as countries beyond.

Her Royal Highness Princess Hjh Rashidah stated this in her address to the 10th SSEAYP International General Assembly (SIGA) at the International Convention Centre yesterday.

Her Royal Highness said the programme provides an opportunity for its participants to learn more about

other countries and have a better appreciation of the traditions and values of other cultures.

Princess Rashidah also gave out SSEAYP International Awards to five recipients from Asean and Japan, including Pg Dato Paduka Hj Asmalee, the country's ambassador to Myanmar, for his contributions and achievements as a youth leader and as an active member of international bodies.

The three-day conference is hosted by Brunei for the second time. It carries the theme "Together We Move Forward".

◀ ブルネイの新聞  
Borneo Bulletin Weekend 紙  
に SIGA 開催の記事が掲載

## 第10回 SIGA にて滋賀県 IYEO 表彰

去る6月のSSEAYP国際ショナル第10回総会にて、3年に一度各国から一名または一団体に対して行われるSSEAYP国際ショナル賞の日本代表に滋賀県IYEOが選ばれ、開会式にて表彰されました。滋賀県IYEOの雨宮会長が王女様より記念の楯を受けました。

記念の楯と表彰状とともに笑顔の雨宮会長 ▶



## 総務庁青少年対策本部に新しい仲間！

人事異動があり、新しい方々をお迎えしました。

**幸田調査官**：「第10回世界青年の船」管理官として来春乗船予定。極めて穏やかで静かな印象。でもありますが、結構目線の動きは厳しかったりします。現在、交流班をじっくり見定めているかも。

**岩佐国際交流振興担当補佐**：こちらも穏やかで静かな方ですが、仕事は素早く粘り強し。内に秘めた闘志はなかなかのものとお見受けしました。コンピュータ関係には、バツグンの強さとのことで「当センターでは相談役にお迎えしようか」という話があるとかないとか。



## 船上パーティーのお知らせ

「第24回東南アジア青年の船」の出航日前日、恒例のリユニオン・パーティーを開催予定。

夕焼けの眺めながらのティータイム。エスニック料理にアセアン音楽、ダンス。そして楽しい会話。

「にっぽん丸」での休日をご家族、友人の皆さんとお楽しみ下さい。会員でない方でも楽しめます。

日時：9月21日（日）16時30分～20時 会場：東京港晴海埠頭「にっぽん丸」船上

参加費：大人 7,000円／子供 5,000円（ティータイム：16時30分～／パーティー：18時～20時）

申込先：葉書、FAXにて、氏名、住所、電話（FAX）、会員か一般の方かを明記の上、お申込を。

〒103 東京都中央区日本橋2-35-14 東京海苔会館6F IYEOリユニオン係

TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436

## 未知の国へスポーツの旅「カバディ」

静岡県青年国際交流機構事務局長  
森 裕子

未知の国への旅。とはいっても国内にいて旅(=新しいものにふれること)をしようと、静岡 IYEO では、食の旅(料理教室)、船の旅(澤山元 によぼん丸船長講演会)に続く第3弾として、スポーツの旅「カバディ」を催しました。

カバディは、「カバディ、カバディ……」と言いながら相手チームにタッチして自分の陣地に帰ってくるという簡単なスポーツですが、由来は虎の狩り。1匹の虎を囲いながら追い詰めて捕らえるといったものだったようです。

私は、このカバディを「第6回世界青年の船」で知り、帰国してからやってみようと考えていました。そして「しずおか国際青年のつどい」(私はスタッフとして参加)に参加してくれたインド人のチャハルさんの協力を得て、3月16日に実現しました。

あいにく天気恵まれず、前日の雨と当日もど

んよりとした曇り空で、集まったのは20人程度。ほとんど初めてのメンバーばかりだったのですが、百聞は一見にしかず、とばかりすぐに始めてしまいました。

攻める人は、一息で「カバディ、カバディ……」と連呼しなければならないのに、うっかりフッと息をしてしまう人。タッチしたのに立ち往生してしまったり、その反対にタッチされたのを見ているだけだったり。始めはそんなふうで大変でしたが、一度判ってしまえば、白熱。最後に1対1になったときの味方チームへの声援といったら……。

カバディの魅力は「初めてなのに夢中になれる」そんなところにあるのではないのでしょうか。

今後も、外国人と接してみたいという日本人や、日本で孤独に(?)暮らす外国人にふれあいの場を提供できたらと思います。

## ハインフェルドの日本人

昨日とはうって変わっての晴天に朝の散歩は風が気持ちいい。そして、我々は本と土産と高揚する気持ちを携えて第一の訪問校ハインフェルドエコ学校の前にたった。

ヒューブナー校長にエスコートされ笑顔が迎える校舎に入る。すぐさま歓迎の催しが、校長の挨拶、町長の挨拶に続いて行われた。音楽学校の子供たちの奏でる美しい調べはこの町にフィット

とっとり青友会会長 長谷川浩司



して我々をなごませてくれる。また、若い乙女達の踊りは進む若さに輝き、躍動感をもって我々に迫る。うーんと唸っている間に今度は我々の出番になってしまった。やや緊張しての挨拶の後、いよいよハインフェルド派遣団が練りに練った友好と交流のゲームの始まりだ。

体育館でマイク無しのため小さな声はかき消され、子ども達の好奇に溢れた視線と歓声が交差する中、団員代表の直ちゃんはたじたじになりながら予定通りに事を運ぼうと必死に頑張っている。又、艶やかな着物に身を包んだ日本美女と粹に決めた日本男児の出現が歓声に拍車をかける。静まるまで待つ校長のしー作戦しか打つ手はなく時間だけがただ過ぎていく。班分け、自己紹介ゲームで予定の1/3を使った為、剣玉と習字ゲームのみで我々の時間は終わったのだが（もちろん歌は

歌ったが）ほんわかと心温まる交流会であった。子ども達は言葉はできなくてもコミュニケーションを図るのがうまい。

その後、校長先生に学校内を案内してもらおう。子どもの姿勢を考えた椅子や机、もちろん木で作られた物で温かさが伝わる。が、スパイスガールズのポスターの張られたそれはやはり子どもの物だ。近くの森に棲む動物の剥製、敷地内に造られた沼や花壇、虫のための壁、日時計などこの環境をしっかりと教えているこの学校にフムムとひとしきり感心した。素朴な風土と人なつこい笑顔の子ども達、森に囲まれたこの学校は、我々の故郷である鳥取に似て人と自然が調和を図るためのものであった。うーん！初めての表敬の後にはなぜかハインフェルドビールが飲みたくなった。

## 香川県 IYEO

## 書き損じハガキ、使用済みテレカで国際協力を！

香川県青年国際交流機構では、次の二つの事業に取り組んでいます。

### 書き損じハガキで国際協力を！

ユネスコが行っている「世界寺子屋運動：2000年までに全ての人に文字を」の一環で、書き損じハガキを集めています。香川県IYEOで集めたハガキは丸亀ユネスコ協会に送られ、そこで資金化されて、寺子屋建設のために各国に送られます。古くなった未使用のハガキ、書き間違えて投函しなかったハガキや消印のない官製ハガキ、また未使用の切手も受け付けています。一枚の書き損じハガキが、文字を学べる施設、いわゆる寺子屋を作り、指導者の育成や機材等の資金にもなります。（締切日：平成10年3月末）

### 使用済みテレカで地雷犠牲者に義足を！

青少年赤十字が行っている国際援助活動で、香川県IYEOで集めた使用済みテレカは日本赤十字社香川県支部に送ります。青少年赤十字では、NTTテレカの協力で資金化し、カンボジアのバタンバンにある「赤十字国際委員会義肢センター」で制作している地雷犠牲者の義手、義足の作成費用に充てるというものです。よろしく願いいたします。（締切日：平成9年12月20日）

（送付先）香川県青年国際交流機構

事務局長 田代 雅一 まで

〒761-21 香川県綾歌郡綾南町畑田 806-10

## アメリカの世紀の終わりの始まり

～近代社会の終焉の先にあるもの～

上智大学教授

松尾 式之

(「第7回世界青年の船」団長)



ご紹介ありがとうございました。今日の演題は「アメリカの世紀の終わりの始まり」です。私は、アメリカの歴史学を勉強してきました。アメリカの専門的な話を聞かされるのではないかと恐れている人もいらっしゃるかと思いますが、なるべく普遍的なお話をしたいと思います。また、会場には国際交流経験がおありの方がたくさんいらっしゃると思いますが、わたしも「第7回世界青年の船」に参加させていただき、強烈な経験をしましたので、その経験を取り入れながら、このお話をしていきたいと思います。

今日、最終的に申し上げたいことは、アメリカとかオーストラリアとかフィジーなどという枠で人間を括るようなやり方をする時代は終わったのではないかということです。大きな見方からすると、アメリカが真先にそうなのですが、世界がばらけてきてしまって、国の「たが」がゆるんでいく時代になってきた。そして、そういう傾向は良

いことだと思うのです。「～国の」「～時代の」というレッテルで自分自身や他人を規定していた20世紀という時代は去って、混乱は予想されますが、21世紀は人間的な世紀、人間が個人個人としてお付き合いできる、非常に面白い時代に入るのでないかということをお今日は皆様に提案し、一緒に考えていきたいのです。

そこで、20世紀という時代はどのような時代であったかということをお、まず検証してみたいと思います。

### 20世紀は「アメリカの世紀だった」

今年1月20日、クリントン大統領は2期目を迎え、就任演説を行いました。2期目だったので、さほど話題になりませんでした。その中で2回、「20世紀はアメリカの世紀だった」と過去形で言っています。これは、雑誌などでもよく言われていることですが、なぜ、このように過去形で言われ

るのかを考えてみたいと思います。

アメリカの20世紀は、異例の事態から始まります。1901年の大統領の暗殺により、セオドア・ルーズベルトが大統領に就任しました。なるはずのない人がなったのです。

なぜ、セオドア・ルーズベルトが大統領になるはずがないと言われていたかと言いますと、19世紀のアメリカはスタンダードオイルを設立したロックフェラー、USスチールを創設したアンドリュース・カーネギーなどの大実業家が出現する時代でした。

南北戦争が終わった1865年には世界で4～5位程度の経済力しかなかった国が、たった30年～40年の間に、国民総生産がイギリスとドイツとフランスの合計を越えるという巨大な工業国家となりました。そのなかで、多くの実業家の成功物語が生まれました。しかし、その過程で多くの歪みが生まれてきます。貧富の差がそれです。当時は、所得税や累進課税がありません。億万長者のロックフェラーの工場で働く、英語を満足に話せない移民は、一日に2ドルから4ドルという安い給料で働いていました。このような現状に対して「社会は不公平だ」という声があがり、世の中が騒然となった時代でした。

### セオドア・ルーズベルトの「革新政治」

セオドア・ルーズベルトは、ニューヨーク州知事時代に、教会と協力して貧困者に毎朝スープを配る「スープキッチン」事業を始めたり、スラム街にも警官の巡回を始めるなど、貧しい人への対策を次々と行っていました。

当時政権を握っていた共和党は、社会の要求に

対応するため、巧みな人事を行いました。つまり、実業界の親玉的存在だったマッキンレーを大統領に、貧困者対策をしていたセオドア・ルーズベルトを副大統領に据えてバランスをとったのです。しかし、バッファローでマッキンレー大統領が演説中に銃弾に倒れ、まさかと思われていた暴れ者の元ニューヨーク州知事のセオドア・ルーズベルトが大統領に就任しました。新しいホワイトハウスの主は、いわゆる今日私達がいう「20世紀」、「アメリカの世紀」、いわゆる今日の私達の人生を規定する時代を作り上げました。



### 大きな政府による「規制」のはじまり

それはどういうことかと言うと、貧困層を救うために、大胆な政策を実施しました。ノーザン・セキュリティーズという巨大な証券会社がありましたが、そこに解散命令を出しました。これは大統領にとって、憲法すれすれの行為でした。大企業を解散させ、各州の小さな企業群に分割していくということを行いました。その他鉄道の「規制」を始めました。西部地方に私企業が進出しはじめ、自然が破壊されているのを見ると、数々の国立公園を制定しました。連邦政府が景観の美しい場所

## 第12回青少年国際理解セミナー

を次から次へ抑え、直接運営、管理を行い、自然保護についても「規制」を敷いたのです。国有林（ナショナル・フォレスト）を制定し、子孫のために資源を確保しました。連邦政府の名において手を加えずに100年以上森を保存するというナショナル・リザーブも行われました。

あるいは、薬の製造、販売について政府が目光らせるようにしたり、肉類は連邦政府が管理し、試験に合格したもののみが販売できるようにしました。つまり、ここでは、「規制」が始まったということを申し上げたい。憲法の拡大解釈によって、天然資源だけでなく、ビジネスの分野で「規制」が始まったのが20世紀だったのです。同時に、科学的なものの考え方が市民権を得、経済学、社会学という学問が完成をみたのです。「富は分配されるべきだ」と唱えたり、あるいは、「工場での作業の合理化をはかることにより、生産性を上げるにはどうしたらいいか」ということを考える学者が出てきました。科学的、合理的な手法によって、資源の再配分を行い、企業の「規制」を行うことによって、貧困者を助け、社会は全体として裕福なものになるという理論が信奉され、ルーズベルトはこれを取り入れました。

### 「スタートラインの平等」から 「ゴールの平等」へ

それ以前は、全くの自由競争の時代でした。アメリカはフェアな国と言われています。しかし同じフェアでも、19世紀は、スタートラインのフェアです。途中、企業が倒産しても、それは個人の責任でしょう、といわれました。ところが、20世紀になると、フィニッシュライン、つまり

「ゴールでの平等」が唱えられるのです。所得の再配分による最終的な平等が、科学的なものの考え方の導入とともに、叫ばれるようになったのです。この目的を達成するためには、大企業に立ち向かって社会正義を実現するためにも、大きな政府が必要でした。これが20世紀の発想でした。連邦政府という大きな力により、ゴールでの平等を図る時代です。20世紀に生まれたこのような発想の時代を「革新主義の時代」といいますが、これは20年続き、3人の進歩的な大統領がこの時代を作りあげました。人間の英知、科学的手法、合理的なやり方を用いて国民の幸せを実現することを試みたのです。特に3人目のウッドロー・ウィルソンは、徹底的な合理主義者であって、科学的手法を用いて、社会の不公平を除去することを試みました。

### フランクリン・ルーズベルトの 「ニュー・ディール」

第1次世界大戦が終わるまで、このような革新主義の流れが強かったのです。戦後9年間は再び自由主義の時代がありましたが、1929年に世界大恐慌が起こり、アメリカの経済全体が麻痺してしまいました。これを契機に再び進歩主義的な時代が出現します。つまり、ニュー・ディールの時代が続くのです。フランクリン・ルーズベルトの政策は、第2次世界大戦後にトルーマン大統領に引き継がれ、1953年1月アイゼンハワー大統領就任まで、約20年間続きました。

フランクリン・ルーズベルトはセオドア・ルーズベルトの遠縁にあたりますが、この大統領のもとで、再び合理的計画に基づく国内管理、つまり、



「規制」が敷かれました。例えば、電波は連邦通信委員会が管理し、鉄道の「規制」は強まり、証券は証券取引委員会で管理されることになりました。テネシー溪谷の水害に悩まされていた白人貧民を救済するために、連邦政府が、多目的ダムを建設し、水力発電をし、電力を地域住民に供給し、肥料を生産し、売店まで経営しました。20世紀の進歩主義の実現です。のちに、アイゼンハワー大統領はこれを「忍び寄る社会主義」と批判しました。経済誌フォーチュンは「人民の人民による人民のための政治」が今や、「委員会の委員会による委員会のための政治になった」という、巨大な記事を掲載しました。「規制」のための行政委員会が、多数存在する政府が出現したのです。しかし、これがあったから、アメリカは、600万人以上の失業者を救うことができたと言えます。第2次世界大戦が勃発し、軍需景気が起こり、戦争という大義名分のもとで、国有企業の設立、計画経済の達成が可能になり、ニューディールの国家統制はもっと強化されました。戦争も成功裏に遂行されました。

### アメリカは「先進国」である

1901年から「アメリカの時代」は始まったといいましたが、これに遅れること16年、ユーラシア大陸でも、1917年にソ連邦が成立しました。ここで、私は、アメリカは先進国だと言いたい。ソ連邦成立の16年前にアメリカはこれをやっていたのです。旧ソ連の体質と、この当時のアメリカの体質を比べてみて下さい。極めて似通った体質をもっていたということに気づかれるでしょう。ベラルーシに何トンのジャガイモを送ったらいい

のか、ウクライナにパンティストッキングを何千ダース送れば国民は幸せなのか、ということがソ連の統制経済の中で行われていました。第2次世界大戦中には、グアム島にジープを何千台送ればいいのか、ルイジアナ州には砂糖を何百トン送ったらいいのかというようなことが連邦政府の中で考えられていたのです。

第2次世界大戦終了直前にルーズベルト大統領は亡くなりましたが、同じ政策を支持するトルーマン大統領政権下で日本は占領されることとなります。マッカーサー元帥の下に本国から多くのニュー・ディール主義の専門家が派遣されます。多くのニュー・ディーラーがアメリカ国内では実現できなかった進歩主義の夢を日本で実現するべく、来日したのです。

例えば、憲法24条では、「両性の平等」が唱われていますが、これにより、日本に古くからあった「家」の思想が否定されました。セオドア・ルーズベルトが19世紀初めにアメリカで行ったよりも更に厳しい財閥解体が行われました。アメリカでは世論の反対などで実現できなかったが、日本で実現できた夢のニュー・ディール政策があります。それは、農地改革です。地主の土地が安い値段で小作農に分配され、日本国内の耕作地のうち、85%が農民の所有になったのです。これは世界でもまれな例です。その他、教育改革などもそうです。戦後の日本の経済を発展させてきたのは、ニュー・ディールの政策、つまり、中央政府による管理・規制によって、多くの人々がスタートラインではなく、フィニッシングラインの平等を目指すという政策だったのです。(つづく)

## 交流の秋がやって来た!



〔今後の地方プログラムの受入予定〕

- 第11回日本・韓国青年親善交流 石川県、神戸市、北九州市（10月25日～11月3日）
- 第19回日本・中国青年親善交流 北海道、徳島県、熊本県、大阪市（11月15日～27日）  
（韓国青年約40人、中国青年約30人が各道府県を順番に訪問します。）

○「第3回アジア太平洋青年招へい」地方プログラム（10月24日～29日）

- ① 静岡県〔韓国、シンガポール、タイ、トンガ〕
- ② 岐阜県〔中国、インドネシア、フィリピン、ミクロネシア〕
- ③ 大阪府〔ヴェトナム、オーストラリア、キリバス〕
- ④ 広島県〔マレーシア、ニュー・ジーランド、ミャンマー、ヴァヌアツ〕
- ⑤ 愛媛県〔ブルネイ、モンゴル、マーシャル、パプア・ニューギニア〕

○「第24回東南アジア青年の船」の地方プログラム（11月14日～16日）

山形県、福島県、群馬県、新潟県、愛知県、三重県、高知県、福岡県

（日本参加青年と各国外国参加青年の混合グループで各県を訪問します。）

○「第10回世界青年の船」の地方プログラム（1998年1月14日～16日）

茨城県、兵庫県、香川県、佐賀県、長崎県、広島市

訂正とお詫び：前号（マクロコズム第17号）P.18の総務庁青少年国際交流事業地方プログラム受入れのお知らせの中で、「第24回東南アジア青年の船」の受入県について誤った記載がありました。本号の内容が正しいものですので、お詫びとともに訂正させていただきます。

青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第13回全国大会  
第4回青少年国際交流全国フォーラム

うつくしま ふくしま '97 ～無限にひろがるコミュニケーション～

1. 主催 総務庁青少年対策本部 (助)青少年国際交流推進センター 日本青年国際交流機構  
船と翼の会ふくしま
2. 主管 日本青年国際交流機構第13回全国大会実行委員会
3. 期 日 平成9年11月29日(土)～30日(日)
4. 会 場 J-VILLAGE 〒979-05 福島県双葉郡楢葉町大字山田岡字美シ森8  
TEL 0240-26-0111(代) FAX 0240-26-0112
5. 参加費 会 員 12,000円 小学生以下 9,000円(宿泊、懇談会、朝食を含む)  
非宿泊 9,000円 セミナーのみ 500円
6. 参加申込方法 同封の振込用紙を切り取り、必要事項を記入の上、参加費用をお振り込み下さい。又は、  
官製葉書に通信欄と同様の内容を記載の上、お申し込み下さい。(10月31日(金)締切)  
〔葉書による申込先〕 〒960 福島市黒岩字弥生46-4 日下部喜美子  
0245-49-5662
7. 参加費振込先 郵便振込口座番号：02260-4-90235 口座名義：IYEO全国大会
8. プログラム 11/29(土) 13:00 受付開始  
14:00 開会式  
14:30 小講演&トーク&トーク  
18:30 懇談会 世界の民族衣装で大交流会  
20:30 終了  
\*同窓会を企画されている方(20名以上)は事務局にご相談下さい。  
11/30(日) 9:30 全体会 小講演&トーク&トークのまとめ  
10:00 事業報告 海外派遣事業帰国報告  
10:30 全国フットサル大会 J-VILLAGEで老いも若きも一汗流そう!  
11:30 閉会式

問い合わせ先：事務局 岩橋香代子 TEL 0242-28-9745 (FAX 兼用)

## 平成9年度「九州ブロック海外派遣青年のつどい」大分大会へのご案内

**主催**：総務庁青少年対策本部、財青少年国際交流推進センター、日本青年国際交流機構  
大分県青年国際交流機構

**日時**：平成9年11月1日(土)～2日(日)

**会場**：亀の井ホテル 大分県別府市中央町5-17

TEL 0977-22-3301 FAX 0977-21-1232

**会費**：全日程参加 15,000円(一泊二食)  
非宿泊参加 6,000円(懇談会参加者)

**参加申込**：参加希望者は、9月30日までに郵便振替用紙に「氏名、派遣事業名、住所、電話番号、小旅行希望の有無」を記載して、参加費を振り込んで下さい。

11/1	開会式	15時
	記念講演	15時30分～「見つけよう自分流国際交流」矢幡欣治氏／
		18時 懇談会
11/2	研究討議／閉会式／	小旅行(湯布院散策／別府方面)

### 編集後記

あっという間に夏が過ぎ、慌ただしい季節を迎えます。まさに交流の秋。航空機による派遣のメンバーを見送り、「第24回東南アジア青年の船」

を9月22日に見送ると、もう「アジア太平洋招へい事業」と「日本・韓国青年親善交流事業」と続きます。全国の皆さん！元気に頑張りましょう！

\*本誌の年間講読をご希望の方は、財青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 9月号 Vol.18 1997年9月1日発行(隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail LDP04056@niftyserve.or.jp

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定価：198円(本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

## SSEAYP International 第10回総会

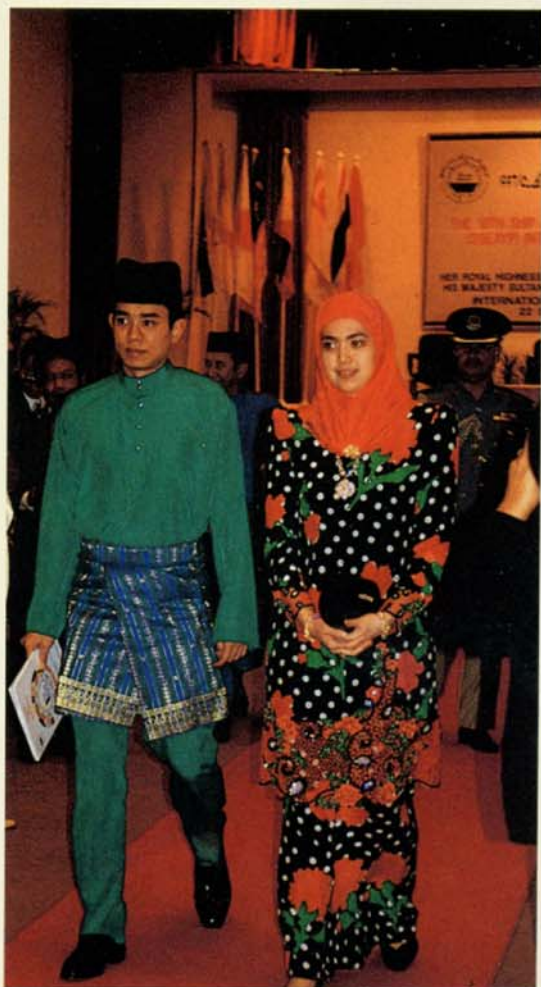
### IN BRUNEI DARUSSALAM

— 1997. 6. 26 ~ 6. 28 —

SSEAYP International 第10回総会が、ブルネイの首都であるバンドル・スリ・ブガワンで開催され、アセアン各国の事後活動組織及び IYEO からの代表者とメンバー 100 名余りが参加しました。

ブルネイの事後活動組織である PERSATUAN BERSATU の大変な努力により、環境問題セミナーを含めた充実した内容の大会となりました。

(本文 P.5~10)



▲ 開会式に王女と夫君のご臨席を賜り、王女からスピーチを頂戴しました  
王女のお名前

*"Her Royal Highness Princess Hajah Rashidah Sa'adatul Bolkiah binti His Majesty Sultan Haji Hassanal Bolkiah Mu'izzaddin Waddaulah"*



▲ 総会の冒頭で挨拶をする渡邊参事官

▼ 総会終了後、決議にサインする各国代表者





◀ 開会式会場前にてアセアン各国代表者とともに



▲ フェアウェルパーティにて外務次官と堅い握手をする IYEO 大森会長



▲ 環境問題セミナーにて日本代表の発表をする第 23 回「東南アジア青年の船」既参加青年の奥平章子さん



▶ 伝統舞踊を堪能